

## 研究テーマ

思考・判断することで運動に主体的に取り組めるようにし、技能を高める指導の工夫

提案者 児玉直也

### I 研究テーマについて

#### 1 テーマ設定の理由

本校体育科では、「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」は、相互に関わり合いながら高まってくると考え研究を進めている。昨年度までの研究では、習得した知識を活用して「思考・判断」することで、「技能」を高めるという成果を得ることができた。しかし、「思考・判断」するために習得した知識は教師から与えられたものがほとんどであったため、主体的に取り組むことに課題が残った。体育科にとって「技能」は中心的な学習内容である。その技能を高めるためには、児童が主体的に学習に取り組むことは欠かすことのできない要素である。



そこで本研究では、教師に与えられた知識だけでなく、児童相互の関わり合いから見付けたよい動きのポイントを知識として習得することで思考・判断できるようにし、運動に主体的に取り組めるようにすることを重点とした。本研究の思考・判断することで運動に主体的に取り組んでいる児童の姿とは、「児童相互の関わり合いから得た知識を基に、その知識を活用して適切に課題を把握し、活動方法を選択したり工夫したりしながら繰り返し活動に取り組んでいる姿」のことである。児童相互の関わり合いが必要となる「集団マット」を取り上げることにより、活動方法を選択したり工夫したりすることができるようにしていく。関わり合いの中で思考・判断を繰り返すことで、運動に主体的に取り組めるようになり、技能が高まると考え本研究テーマを設定した。

#### 2 テーマにせまるための方策

##### — 視点 —

児童相互の関わり合いを活性化することで、思考・判断を繰り返すことができるようにする。

〈手立て〉

- (1) 児童相互の関わり合いが活性化するように、グループでの集団達成を目標とした「集団マット」を取り上げる。確実な技能を身に付けるために単元前半は、ペア学習で「基本的な技」「発展的な技」を習得できるようにする。
- (2) 児童相互の関わり合いが活性化するように、タブレット型端末を活用して動きを可視化する。映像を基にペアやグループの課題を明確にする話し合いができるようにする。
- (3) 児童相互の関わり合いが活性化するように、「練習プランニングボード」を作成し、ペアやグループの学習を進めていく上での手引きとして活用できるようにする。
- (4) 児童相互の関わり合いが活性化するように、「コツ伝達タイム」を設ける。児童のもっている「知識」や「気付き」を取り上げて学習を進めていくようにする。ペア学習では、技のコツを伝えられるようにし、集団マットの学習では、演技の構成についてのコツを伝え合うようにする。

